

読売理工医療福祉専門学校

学校関係者評価 報告書

2017 年度・第 2 回

2017 年 11 月 25 日

学校関係者評価委員会

1. 学校関係者評価

学校関係者評価は、卒業生・保護者・地域住民・企業役員等の学校関係者を委員として選任し、学校が実施した2016年度の自己評価結果の結果と2017年度の取り組みに対する評価する。委員は以下の項目について評価し、教育活動と学校運営の改善に向けて学校に助言する。

- ・自己評価の内容が適切かどうか
- ・自己評価の結果を踏まえた今後の改善方策が適切かどうか
- ・学校の重点目標や具体的方策が適切かどうか
- ・学校運営の改善に向けた実際の取り組みが適切かどうか

2. 2017年度 第2回学校関係者評価委員会の実施

2017年度における各評価項目の取り組み状況と重点目標に関する取り組み状況を報告し、委員の方々に評価とご意見・ご提案を頂いた。

尚、2017年度の重点項目は次の通りである。

- ・留学生教育の充実
- ・教育の質保証に向けた取り組み
- ・校舎移転を含む教育設備整備の推進

・開催日時：2017年11月25日（土）午後2時～4時

・場 所：読売理工医療福祉専門学校 402 教室

3. 学校関係者評価委員会委員および委員会参加者

【委員】

- ・渡部 俊一：卒業生 校友会会長
- ・風間 正弘：保護者 建築学科学生の保護者（欠席）
- ・湯浅 孝雄：地域住民 慶応仲通り商店会会長
- ・羽場 宏祐：企業等 放送映像学科（株）インターナショナルクリエイティブ取締役最高顧問
- ・鹿毛 信一：企業等 建築系学科 河端建設(株)工事部長
- ・武田 知明：企業等 電気電子学科 東邦電計(株)営業部長
- ・笹口 友美：企業等 臨床工学系学科 北里大学北里研究所病院・看護部
- ・大庭 尚子：企業等 介護福祉学科 港区立特別養護老人ホーム港南の郷・保健課長

【学校側】

- ・千葉康文：理事長
- ・吉見淳一：専務理事
- ・渡邊敏章：校長
- ・天野誠一：法人本部長
- ・佐伯和宏：事務局長
- ・菅野敬祐：校長補佐・臨床工学系学科長
- ・黒田幸弘：建築系学科長
- ・水落清治：放送映像学科長
- ・角田浩二：電気電子学科長
- ・曾我辰也：介護福祉学科長
- ・豊田正敏：参与
- ・久保真樹：総務室課長

（敬称略・順不同）

4. 委員からの意見・提案（評価点：4点満点）

[1] 2017年度の取り組みに関する意見

(1) 教育理念・目的・育成人材像等（4.00）

- ・読売式教育メソッドによる学生の適性に合った専門職への導き指導が更に必要。

(2) 学校運営（3.70）

- ・留学生に対する語学、専門力、人間力、就職力のさらなる開発プログラムが十分か検討する必要があると思われます。
- ・専門職大学、短大に関する調査検討が必要。
- ・学校の将来を見据えた教員の人材確保が必要ではないかと思えます。

(3) 教育活動（3.80）

- ・留学生の増加や学生のレベル差に対応する教員のマンパワーと学科毎のチーム力が上がっているか。

(4) 教育成果（3.73）

- ・就職状況を聞くとパーセントが少ない学科もありますので更なる学生指導が必要。

(5) 学生支援（4.00）

- ・留学生の増加に伴い、言葉・文化・習慣の違いがあり、支援が困難なケースもあり、教職員のケアも大切になってくると思えます。
- ・留学生に対する更なる支援が必要である。
- ・学生の更なる経済的支援が必要。

(6) 教育環境（3.44）

- ・現在の校舎や施設の老朽化に対して可能な対応が必要。
- ・新校舎移転に伴う効率の良い教育環境に期待。

(7) 学生の受け入れ募集（3.80）

- ・留学生の募集を積極的に推進する必要がある。
- ・効率の良い各種媒体での募集をお願いします。

(8) 財務（4.00）

- ・更なる計画的な財務の検討をお願いします。
- ・新校舎移転に伴い学生の収容人数（募集人数）の見直しが必要ではないか。それに伴い教員の適正な人数計画と確保が必要。

(9) 法令等の遵守（4.00）

- ・法令遵守の全教職員への更なる自覚など引き続き対応をお願いします。
- ・学生、特に留学生への十分なコンプライアンス教育が必要。

(10) 社会貢献・地域貢献（3.55）

- ・地域貢献等は新校舎に移転しても続けて欲しい。
- ・今年も24時間テレビ、地元商店街のイベントへのボランティア活動が行われた
- ・各学科の取り組みの差が気になります。学科によっては地域貢献が難しいと思う。

[2] 2017年度の改善点に関する意見

- ・留学生教育の充実はよいと考えています。
- ・地域貢献・学生ボランティア活動の活性化よいと考えています。
- ・新校舎の完成に伴い財務的には学生の収容人数（募集人数）を増やす。特に今後増加すると思われる留学生の受け入れ態勢と教育プログラムの構築が急務。
- ・専門職大学、短期大学の新設に伴い専門学校役割、目標、授業カリキュラム等、原点に戻り検討する必要があるかも。
- ・留学生の日本語教育の徹底
- ・専門学校は少子化と大学志向のなかでどのような方向性で教育していくのか。大学の入試制度改革も見据えていく大切な時期であると感じています。

5. 2017年度重点目標

・学生教育の充実

留学生の教育については過去2年間重点目標に置き、学校内の指導環境は大きく整備前進され、日本語能力向上・生活指導の体制は一通りの成果を見せることが出来てきた。

留学生の在籍数は増加してきており、進級・卒業生数も増加することから卒業後の進路決定に対する充実を図りたい、進路として留学生の多くは日本国内での就職を希望しており、留学生に対する就職指導の方法を確立することを重点の目標にする。その達成には、就職に向けたマナーをはじめとした就職力の向上と共に企業の開拓に力を入れ、入学から卒業までの留学生の指導を確立する。さらに各学科においても、留学生の入学から卒業までのスタンダードを完成させる

・教育の質保証関連

昨年度の各学科の自己点検評価に於いては、次の3つの項目について適切とする学科が少なく、職業実践課程の「最新の実務の知識・経験を教育内容・教育方法に反映した教育を行うことが期待されており、当該専門課程において、企業等との連携の下、職業に関連した実務に関する知識、技術及び技能並びに、授業及び学生に対する指導力等の修得・向上のための組織的な研修の機会を作る」という観点からも、重点項目とし今年度より適切なものにした。

- 1) 各学科の関連分野における実践的な職業教育の産学連携によるインターンシップ、実技・実習等のさらなる充実
- 2) 各学科の関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上
- 3) 卒業後のキャリア形成への効果を把握と支援

・移転準備作業の着実な推進

2020年4月の文京区への移転が決まり、新校舎での学校運営が滞りなく開始出来るよう、教室・実習室等設備等は勿論のこと、関連公官庁への届出変更、学生募集等に関する準備作業についても着実に推進する。

6. まとめ

今回の評価で委員の方々からいただいた意見・提案は、来年度の学校運営・教育内容に反映させていく。

以上